

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム 都筑の丘		
所在地	(〒224-0057) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成25年1月17日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月18日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH都筑の丘に入居されたご本人は勿論、ご家族も安心して生活できることを目標にしています。そのためには職員が入居者様の思い、気持ちに添えるように努力しています。事業所としては職員が安心して楽しく仕事できる環境を考えています。自然に恵まれた環境の中で、四季を感じながら穏やかに毎日を過ごして頂いています。週2回全入居者様が集まって行う機能向上を目指した燦々会や月2回の音楽療法の燦々会は様々な効果が出てきています。特に燦々会は全員が集まるという行動が日常のことであり避難訓練の時などはスムーズに動けるようになっていきます。川和町の住民として暮らしていることが地域の方々からも違和感無く受け止めて頂いていると思います。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月27日	評価機関 評価決定日	平成25年5月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、市営地下鉄川和町駅から徒歩10分ほどの自然豊かな「都筑の丘」に建ち、畑や竹林が残る閑静な住宅街にある。敷地内は桜などの四季折々の花が咲く木々が植えられ、花壇や畑がある。建物は各居室から花が見えるなどの利用者目線での設計である。中庭には東屋もあり地域の憩いの場として開放されている。オーナーである理事長は代々地元で酒屋を営んでおり、地域の方に望まれてこの事業所を開設した。</p> <p>【自立に向けた支援の実践】 自然環境に恵まれた中で、理念の一つである「五感を刺激し、個人の能力が発揮できるよう支援します」に基づき、週2回の機能向上を目指した訓練や、月2回のボランティアによる音楽療法、さらにはダンスパフォーマンスを実施し、楽しみながら機能訓練に努めている。散歩も日課としており、敷地内の畑では地域のボランティアの協力で、季節の作物を作り、収穫し食材としても活用している。利用者は調理、盛り付け、配膳、後片付けなどの手伝いをしている。職員は利用者の自主性を尊重し温かく見守りを重視している。利用者は笑顔で明るく元気に過ごしている。</p> <p>【地域との連携強化】 「都筑の丘納涼祭」「新春餅つき大会」には多数の地域の方が参加し、地域行事である盆踊りや夏祭りには利用者や職員が参加している。地域のボランティアによるイベントも多く、利用者は地域の方と気軽に楽しく接している。その他にも、保育園児との交流や中学生の職場体験、消防団との合同訓練など地域との交流の機会が多い。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき棟・やまぶき棟・あじさい棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記し確認できるようにしている。職員には5つの中から自分が好きな理念をひとつあげそれを目標として達成できるよう努力しその成果を発表している。	理念は、開設時に理事長と職員で話しあって作り上げたものであり、毎週月曜日には、理念の確認と唱和を実践している。研修でも職員相互に確認している。事業所の歌があり、利用者と斉唱していた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様が常に見守ってくださり、時には厳しいお叱り、注意をいただくこともあります。ありがとうございます。去年は町内会の芸能祭に声がかかり参加させていただき、好評でした。参加した職員は今年も参加したいとはりきっている。	町内会に加入して回覧版にお知らせを載せている。散歩時に花をもらったり、地域行事や、地域のボランティアによる絵手紙や習字など多数のイベントに参加したりしている。保育園児や中学生との交流もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川和小学校の認知症サポーターの講師、近隣の中学校の職場体験、ホームヘルパー2級の養成研修の実習生の受け入れ、夏休みのボランティア体験の受け入れをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議とホームのイベントを同日にし、委員の皆さんにも参加していただくことにより、より一層のご理解、ご協力をいただけることになりサービス、質の向上に活かされている。	3カ月ごとに開催している。家族、民生委員、婦人会長、ボランティア代表、地域包括支援センター職員、理事長、副理事長、管理者が出席し、活動状況、行事、外部評価アンケートなどの報告をしている。運営推進会議での意見を活用し、スプリンクラーの設置など防災面を改善した。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の研修、勉強会にも積極的に参加し、区役所主催の認知症サポーター連絡会、認知症フォーラムのスタッフとして活動している。	区の高齢福祉課が窓口である。「認知症サポーター会議」に毎月管理者が出席して情報を交換し、研修会にも参加している。市のグループホーム連絡会に参加して、他の事業所と情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしないという前提でケアを行っている。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故必要な方法であることをご家族に入居時に説明してご理解頂いている。</p>	<p>拘束をしないことを明記し、研修は採用時と年度初めに実施している。過去に不意の外出があり、安全面から家族の了解を得て玄関の施錠はしている。外に出たい方には職員が付き添っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>肉体的なものだけではなく、精神的な虐待（特に言葉の暴力）は絶対に行ってはいけないことを徹底している。職員同士で異常が見られたらすぐに報告、原因究明をするようにしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は自立支援の重要性を理解しており、日々実践している。権利擁護に関しては地域の住民の為の勉強会を企画し職員も参加したことがある。成年後見人の必要性は理解している。制度を利用されている方もいた。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約している。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価のアンケートの回答を全職員に見せて、改善すべき点は早急に検討し実行している。ご家族が来棟された時、ホーム長が近況報告をしながらお話を伺っている。場合によっては管理者が対応している。</p>	<p>家族の意向は、来所時、行事の参加時、介護計画の説明時などに把握するように努めている。少なくとも2カ月に1回は来所してもらえるように手紙などで連絡を取っている。お茶の接待や見送りは不要との家族の意見があり対応した。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のワーカー会議で出た問題点、要望案などはすぐにその後の全体会議で検討、改善している。各行事の実行委員による反省会が出されたことは来年度に反映されている。	毎月のワーカー会議で職員の意見を収集し、朝礼後の引き継ぎ時などに意見を聞いている。管理者との年1回の個人面談もある。職員はその都度、ホーム長や管理者に、献立の改善など提案をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の持っている能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金も申請している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の受験時も便宜を図っている。社内研修は全職員が参加できるように日程を組んでいる。社外研修にも多くの職員が参加できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川高齢者認知症グループホーム協議会に加入し複数連携事業にも参加し交流をしている。都筑区の認知症サポーターとして活動している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をします。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、他入居者にも協力して対応をしている。帰宅願望は自然のことであると理解し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者さんに対しての思い、ホームに対する希望など遠慮なく言える雰囲気を作り、ご家族が安心して頂ける環境を作っている。納得出来るまで見学相談をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、あせらずに根気よく対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働している。時にはトラブルも発生するが、それも日常生活と捉えている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでも、気軽に来て頂ける様にしている。家族と職員が協力しあうことが入居者さんの安心と安定に繋がるとして援助している。ご家族に安心していただくこともケアと考えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	今まで過された環境を大切に、家族、友人の訪問、外出はとても良いことだと思っている。	近隣の知人や学生時代の友人が訪ねて来る。アメリカに住んでいる家族に連絡を取り、毎週電話をくれるようお願いしたケースがある。絵手紙のあて名書きの手伝いもしている。家族と一緒に墓参りに行くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を職員が常に視野にいれている。仲良し同士で入浴したり、遅くまで訪室しおしゃべりをしていることはとても良いことだと思っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では該当するケースはありません。今後必要なケースが出現した場合は相談、支援していきたいと思っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、ご本人の思いを大切にし、個別ケアを大切にしている。感情の表出ができない方は思いをくみ取る努力し、効果がでている。病状などを考えながら。	アセスメントや日常のケアの中で把握に努めている。思いを言葉で表現出来ない方は表情や態度から読み取っている。馴染めない方の興味を把握し、好きな役者を話題にしてコミュニケーションを取ることに成功した。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	体験入居時に幼少時から現代までの状況をご家族と一緒にアセスメントを行い、職員も良く理解し、今後のケアに反映させている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態は毎日報告書としてパソコンに入力し出勤した職員は必ず目を通し業務に入っている。一人一人の特別なことをお手伝いしていただいております職員は助かっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月ケース会議を行い職員は入居者一人ひとりのケアプランを理解したうえで援助目標が達成できるように支援している。本人の気持ち、ご家族、医療関係との連携を密にとりながら、情報の共有をしている。</p>	<p>アセスメント実施後、1~2カ月様子を見て、ワーカー会議で職員全員で利用者の出来る事などを挙げ、入居者報告書、業務日誌、連絡ノートなどを参考に介護計画を作成している。見直しはその都度実施している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の業務日誌、ご家族に送付している報告書、職員間の連絡ノートに重要事項を記入し、入居者の日々の変化を共有しながらケアプランに反映させている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療機関との連携、地域の婦人会、地元の消防団、保育園、中学校、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>書道、絵手紙、音楽療法、園芸療法、マジック、納涼祭、餅つき、囲碁などの地域ボランティアの方たちのご協力、ご近所の方たち見守り助言などを頂きながら安全で豊かな生活が送れるように支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>掛かり付け医（内科・整形外科・歯科）による、定期的な往診。急変時の対応に職員。ご家族も安心している。</p>	<p>利用者全員が協力医を受診しており、往診は2週間に1回、さらに訪問看護師が来る。歯科医は毎週火曜日に訪問があり、皮膚科の往診もある。精神科などへの通院は家族が対応し、医療情報医療情報は家族から知らせてもらい、共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>掛かり付け医の看護職員と往診・受診の時に相談できるようにしている。電話での相談もいつでも快く対応してくれている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>大きな医療機関は現状では家族でない情報ももらえないので、ご家族との連携を密にとりご家族から情報を提供して頂きながら退院後の生活を考える。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した時、ワーカー会議で職員がどこまでケアできるかを話し合い、掛かり付け医、ご家族と相談しながら特別養護老人ホーム、ケア付き有料老人ホームへの入所に繋げている。終末期の対応も取り組んで行きたいと思っている。</p>	<p>方針としてターミナルケアは実施しないことを契約時に家族には説明している。利用者には出来るだけのことは対応している。職員に対する研修は実施していない。</p>	<p>今後、重度化や終末期の支援にも取り組む意向ですので、職員の研修や医療体制の確認など、準備しておくことを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>社内研修で応急手当の訓練を行っている。また、救急マニュアルを緊急時すぐに見ることが出来るようにしている。事故が発生した時はそれを教訓として事例検討している</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震発生による火災を想定した避難訓練や地域の消防団の協力による独自の消防訓練を行っている。</p>	<p>年2回消防訓練を地域や消防署の協力を得て実施している。夜中に誤って非常ベルが鳴り、利用者が起きてこないなどの問題点が確認できた。夜間に抜き打ちで職員に電話連絡網を回し、訓練をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年4月に接遇研修を行い、笑顔の重要性、言葉遣い、所作、態度などを学んでいる。日々のケアの中で気付いたことは、その場で職員同志で注意をしている。	年度初めの接遇研修で、利用者の尊重とプライバシーを損ねない対応を確認している。人生の先輩として言葉遣いには十分注意している。失禁しても気づかれぬように対応している。個人情報記載された書類は鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表現できるような環境、雰囲気を作っている。散歩、レクリエーションなどの参加も自由で入浴時間なども希望の時間にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で決めて頂いている。できない方は職員が季節や好みを考えながら支援している。訪問理容院により好みのヘアスタイルにして貰っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が一緒に食事作り、盛り付け、配膳を行っている。食後は食器拭き。片付けも行っている。得意分野でお手伝いをするにより、様々な良い効果がでている。	職員が利用者の協力を得ながら調理している。食材は地域の商店から調達し、献立は元職員の栄養士に委託している。外食やすしの出前も楽しんでいる。畑の作物も食材として活用している。利用者の状態に応じて、きざみなどの対応もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士によるバランスの良い献立をもとに、一人ひとりの摂取量を職員が把握している。制限のある方は毎回計量している。摂取量が少ない方は医師に相談しながら支援している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎週火曜日に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。職員も歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。毎食後に職員が歯磨きの見守り、介助をしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄の記録をもとに、それぞれの排泄パターンを把握し、トイレの声かけを行い、リハビリパンツ、尿とりパッドを使用しているもトイレでの自然な排泄ができるように支援している。</p>	<p>排泄は半数以上の方が自立している。リハビリパンツの使用は最小限にとどめ、声をかけてトイレ誘導している。入居時にオムツを使用していたが、入居後排泄が自立になった方がいる。目印として、トイレのドアにドレスタオルを掛けている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の原因で不穏になられたり、具合が悪くなる事を職員が理解している。水分コントロール、散歩や体操とそれぞれの方に合わせた対応をしている。医師より困難な時は薬を処方している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一日おきの予定があるが本人の気持ちを大切に、希望にあわせて入浴出来るようにしている。入浴拒否の強い方には無理じいはせずに気持ち良くはいついていただけるよう努力している。</p>	<p>少なくとも1日おきには入浴している。毎日入浴する方もいる。希望により同性介護もできる。入浴しながらない方には声かけを工夫している。ゆず湯や菖蒲湯も楽しんでいる。脱衣所にエアコンの設置がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り、お手伝い、入居者同士のおしゃべり、散歩、余暇支援をすることが夜間の良眠にあわせ、居室で休息したり、昼寝をしたりしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬のことががすぐ分かるように薬情書、また与薬時の誤薬の防止のための服薬管理表がすぐみられるようにしてあり、薬の変更、増減、中止などがある時は連絡ノート、引継により徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な事、好きな事を発揮できるよう様々な場面を作っている。人文の担当、役割がある事でホームの生活を楽しむ事ができる。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や入居者の希望にあわせ毎月外出行事を行っている。図書館、美容院（パーマ、毛染め）はご家族に協力して頂いている。友人との外出もある。	散歩は毎日、利用者の状況により午前と午後に、車椅子の方も参加して、事業所内や近くの公園、神社、駅まで行くこともある。ズーラシアや回轉ずし、地下鉄に乗って近くのショッピングセンターにも行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる、金銭トラブル、妄想等の出現あり、金銭は預からざるを得ない。ご本人には家族が預っていることを納得して貰っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合はご家族と相談の上で、掛けたいと言われた時にホームから家族、友人に電話をしてかけていただいている。自分で描かれた絵手紙を友人、家族に出している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要の無い音（誰も見ていないTV）職員同士の大きな声、程よい明るさなどの環境を大事にしている。季節ごとのディスプレイは入居者も参加しながら楽しんでいる。	リビングは天井が高く明るく、庭に咲く季節の花が飾られている。加湿器、床暖房、空気清浄機などが備えられ、寄付してもらった雛人形や利用者の作品、今年の抱負が飾られている。臭い対策として、オムツの捨て方や換気には特に注意している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり入居者同士が楽しく過ごしている。一人になれる空間にもなっている。入居者同士お互いの居室を訪れてコミュニケーションをとっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者が工夫して生活している。	エアコン、レースのカーテン、照明、クローゼットが備え付けられている。利用者はタンスやテレビ、家族の写真などを持ち込んでいる。居室の名札には手づくりの飾りつけをしている。朝食時に各居室の窓を開けるなど、職員は毎朝換気に注意している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介してさりげない見守りができるように対面式キッチンにしてあり。食事の盛り付け、配膳、食器拭きなどのお手伝いなどが安心してできる。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム都筑の丘

作成日

平成25年5月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	介護保険上の看取りはしていません	法人として今後の取り組みについて検討しています	開設から現在まで6名の方を見送りました。終末期のケアについては研修、ワーカー会議でも取り上げています。終末期の方がいることによる、他入居者へ及ぼす影響を考慮し検討しています	随時
2		家族アンケートの結果で問い10・13に対して良い評価を100%の回答をいただいた	来年度は100%が増え、ご家族から信頼していただけるよう努力をします	常に入居者、ご家族が安心され都筑の丘に入居して良かったと思っただけできるよう、毎月事例を出しながら接遇の振り返りをしています	随時
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。